軽池北遺跡の調査

（昭和51年5月～昭和51年6月）

この調査は，橿原市立畝傍東小学校の新設工事に先立って実施したものである。調査地は橿原神宮前駅の東南0.8㎞に位置し，「軽池」の北方にひろがる丘陵と水田の一部である。

調査の結果，丘陵上で奈良時代後半頃の掘立柱建物1，13世紀前半の竪穴住居3，弥生時代と古墳時代の土壙2，7世紀末の溝1等を検出した。掘立柱建物SB120は3間×2間の東西棟建物である。桁行の柱間は2.5㎡等間であるが，梁行は1.7～2㎡とばらつきをみせ，平面形もいびつである。柱穴から出土した瓦・土師器・須恵器から奈良時代後半の建物と考えられる。

竪穴住居3棟は，いずれも丘陵尾根で発見した。出土した瓦器の年代から13世紀前半のものと考えられる。竪穴住居SB105は東壁と北壁を残し，2×3.7㎡程の南北に長い長方形プランに復原できる。東と北に周溝を残し，柱穴が4隅にある。南端に多量の瓦器を含む貯蔵穴と思われる土壙SK103がある。竪穴住居SB110は東壁と北壁を残し，4.5×3㎡程の東西に長い長方形プランに復原できる。東と北に周溝を残し，柱穴が4隅にある。西端で検出した貯蔵穴と思われるSK107から多量の瓦器が出土した。竪穴住居SB115はSB110を壊してつくられている。東壁と北壁を残すが，平面形・面積とも明らかでない。周溝は東と北に残り，東北隅の柱穴を検出した。

溝SD140は幅7㎡以上，深さ1.1㎡を測る。自然地形による狭い谷，もしくは凹みとも考えられるが，全容を明らかにできなかった。最下層から7世紀末の土師器・須恵器が出土し，上層には瓦器片を含む。

竪穴住居SB105・110・115及び貯蔵穴と思われるSK103・107から出土した瓦器は，いずれも13世紀前半のものと考えられる。畿内で，この時期の竪穴住居の発見された例はきわめて少く，貴重な例といえよう。なお，詳細は『軽池北遺跡発掘調査報告』（軽池北遺跡調査会 1977年3月）を参照されたい。